

石見銀山遺跡 ニュース

Newsletter of the Iwami-Ginzan Silver Mine Site

MARCH 2009 NO.14

平成21年3月3日発行 第14号

島根県・大田市教育委員会



>> Contents

page 2~3	石見銀山世界遺産センター フルオープン記念式典…大田市	西村崇司・楫 隆宏
4~5	展示解説	島根県 目次謙一
6	調査研究事業から (1)発掘調査	大田市 新川 隆
7	(2)テーマ別研究	島根県 椿 真治
8	整備事業から 町並みを歩く⑫	大田市 松浦 満・今田善寿
9	情報発信 世界遺産登録1周年記念事業	島根県 和田守弘・田原淳史
10	島根ふるさとフェア2009	島根県 引野佳幸
11	“好評”大久保間歩一般公開	大田市 長嶺康典
12	石見銀山遺跡調査活用委員会	島根県 椿 真治
13	石見銀山世界遺産センター 活動だより	島根県 守岡正司
14	イベント情報	

【石見銀山世界遺産センターフルオープン、テープカット】

石見銀山世界遺産センター フルオープン記念式典

大田市石見銀山課 西村 崇司

1. はじめに

平成20年10月20日、かねてより整備を進めてきた石見銀山世界遺産センター(以下「世界遺産センター」)がフルオープンしました。

この世界遺産センターは、大田市が事業主体となり、平成17年度から整備に着手。平成19年10月4日にガイダンス棟を先行オープンさせ、並行して進めてきた展示棟と収蔵体験棟の整備がこのほど完了し、完全供用を迎えたところです。

展示棟展示室は、既設ガイダンス棟と渡り廊下で結び、石見銀山の歴史や技術、出土遺物や模型などの展示品、そして映像などを通じて体感できるように工夫しました。もちろん、ガイダンス展示とあわせて世界遺産の価値も伝えられるよう配慮しました。

収蔵体験棟では、銀製錬の過程や丁銀づくりなどの体験ができる体験学習室、また、出土遺物を保管する収蔵庫を整備しました。

以下、本稿では、フルオープンの記念式典などについてお知らせします。



▲記念式典：オリエンテーション室にて

2. 内覧会 平成20年10月15日

地元の大森町と水上町の住民をはじめ関係者300人が来館されました。現地にお住まいの方や日頃から現地を訪れている方が多く、本谷地区の復元模型や大久保間歩の坑内模型のコーナーでは、「あの竹やぶの中は、銀山が栄えたころ、小さな家がたくさん建ち並んでいたんだね」とか「本物のようだ」など、会話がはずんでいました。



▲内覧会：展示観覧の受付リハーサルも兼ねました



▲内覧会：展示室内にて

3. 記念式典 平成20年10月20日

式典に先立ちガイダンス棟玄関口で定礎式を行ない報道機関の内覧会を行なった後、10時から記念式典を行ないました。文化庁の三宅克広調査官、鳥根県の藤原義光教育長をはじめ80名の来賓者を迎え式典を開催しました。竹腰創一大田市長が、「世界遺産センターを核として、石見銀山遺跡を守り、はぐくみ、活かす取り組みをさらに進め、遺跡の玄関口として愛されるよう取り組んでいく」と挨拶。

その後、テープカット(表紙写真)を行ない、午後1時から展示室を一般公開。216人の観覧者があり、「石見銀山の全体像がわかりやすい」などとの印象を語っていました。

4. おわりに

一昨年10月のガイダンス棟の先行オープンからフルオープンまでの1年間で235,400人が来館されました。この間、世界遺産センターでは、市・県の専門職員およびスタッフが常駐する体制が整いました。石見銀山のビジターセンターとして総合ガイダンスを担うとともに、遺跡の調査研究、保存・管理などを担う拠点施設として、来訪者に喜んでいただけるよう、そして石見銀山ファンが二度三度と足を運んでいただけるよう運営していくこととしています。



▲展示室内：クイズも楽しめます

【資料】石見銀山世界遺産センターの構成(平成21年1月現在)

■所在地 島根県大田市大森町イ1597番地3(第3駐車場:大森町イ1689番地)

■用地関係

用途	駐車台数など	面積
建物敷地		4,100㎡
第1駐車場	【パーク&ライド拠点】普通車100台、身障者用4台、待機バス13台	5,700㎡
第2駐車場	普通車38台	950㎡
第3駐車場	普通車約250台	9,800㎡

■建物関係

名称	構造	延べ面積	機能・役割
ガイダンス棟	木造瓦葺き平屋建て	763.47㎡	ガイダンス・便益(無料)
展示棟	R C造瓦葺き一部2階建て	720.69㎡	展示(有料)、調査・研究、教育・普及
収蔵体験棟	R C造瓦葺き一部2階建て	477.53㎡	体験学習、収蔵・保管
便所棟(既存)	木造瓦葺き一部2階建て	111.78㎡	

石見銀山世界遺産センター展示室入場者1万人突破

大田市石見銀山課 榎 隆宏

10月20日のフルオープンから34日目の11月22日に入場者が1万人に達しました。1万人目の入場者は、山口県岩国市から家族で来られた柳井玲子さん一家。記念のくす玉を割り、大田市の小川和邦教育長が温泉津焼きのコーヒーカップや石見銀山の絵ハガキなど記念品を贈りました。



石見銀山世界遺産センター

世界史に刻まれた鉱山遺跡、石見銀山 — その最盛期である17世紀(江戸時代はじめ)を体感

「石見銀山世界遺産センター」へ

皆様のお越しをお待ちしています。

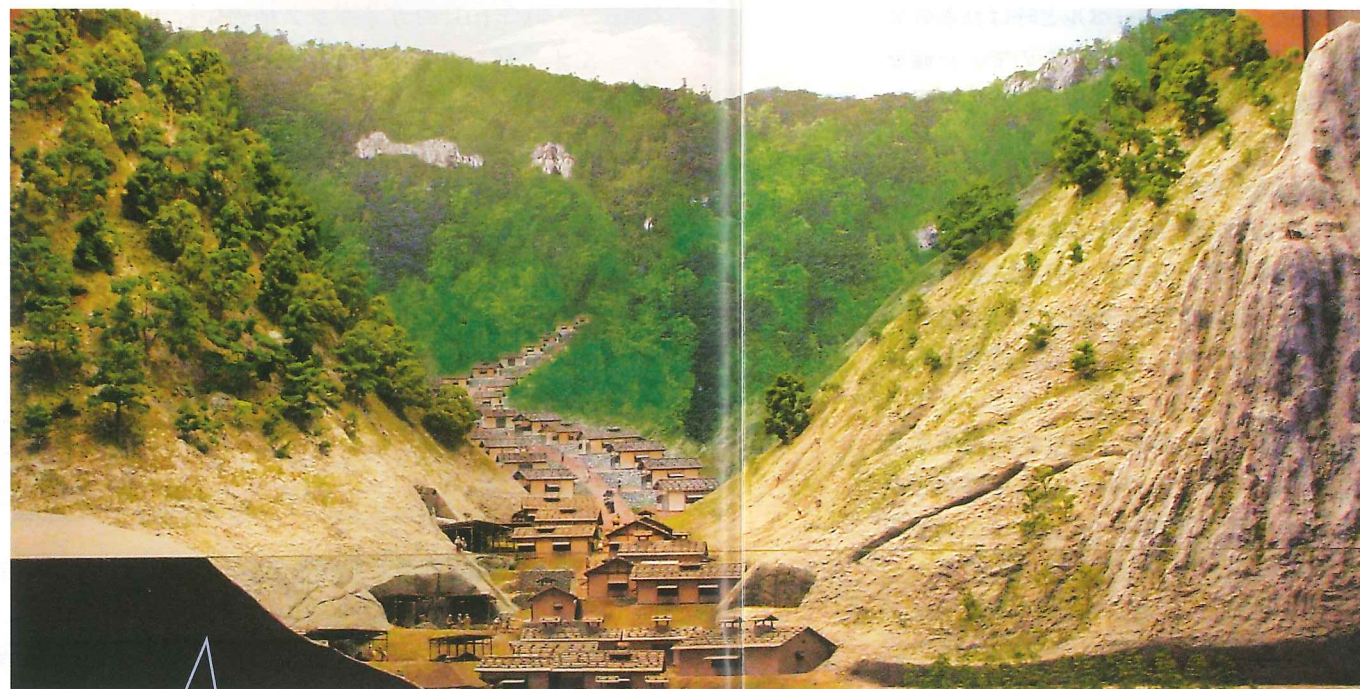
島根県世界遺産室 目次 謙一

世界に影響を与えた石見銀山の歴史と鉱山技術について、わかりやすく紹介しています。展示には、これまでの石見銀山遺跡の調査・研究の成果を盛り込みました。出土遺物や模型・映像を通じて世界遺産としての価値を体感していただけます。



1 おとりおさめちようぎん 【御取納丁銀 5倍拡大銀製レプリカ】

展示室入口にある「御取納丁銀」のレプリカ(模型)は本物に忠実な仕上がりです。「御取納丁銀」とは毛利元就が天皇の即位式の費用に納めたもので、その控え1枚が唯一現存します。ぜひ触れて質感を味わってください。記念写真の撮影もできます。



2 【本谷地区の鉱山町 再現模型】

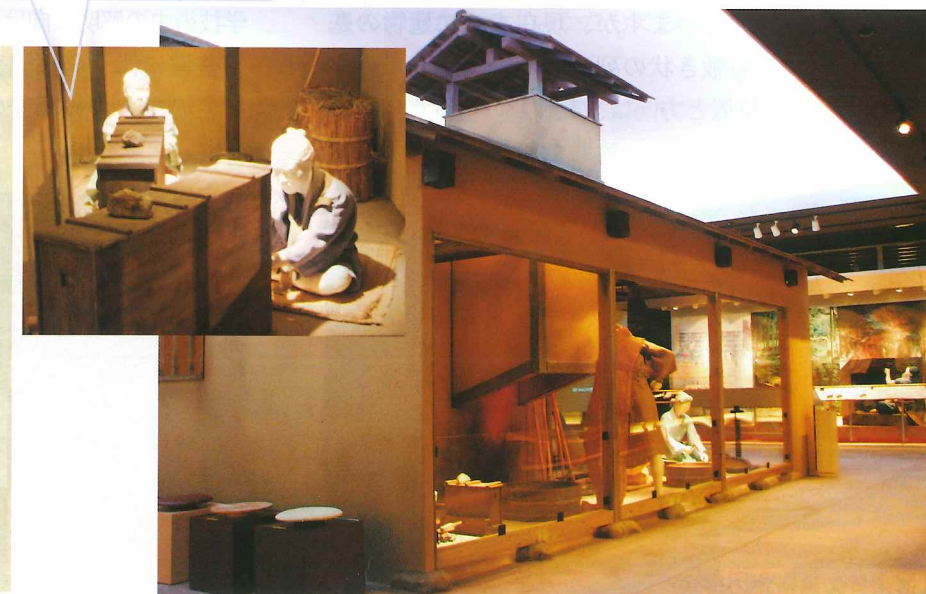
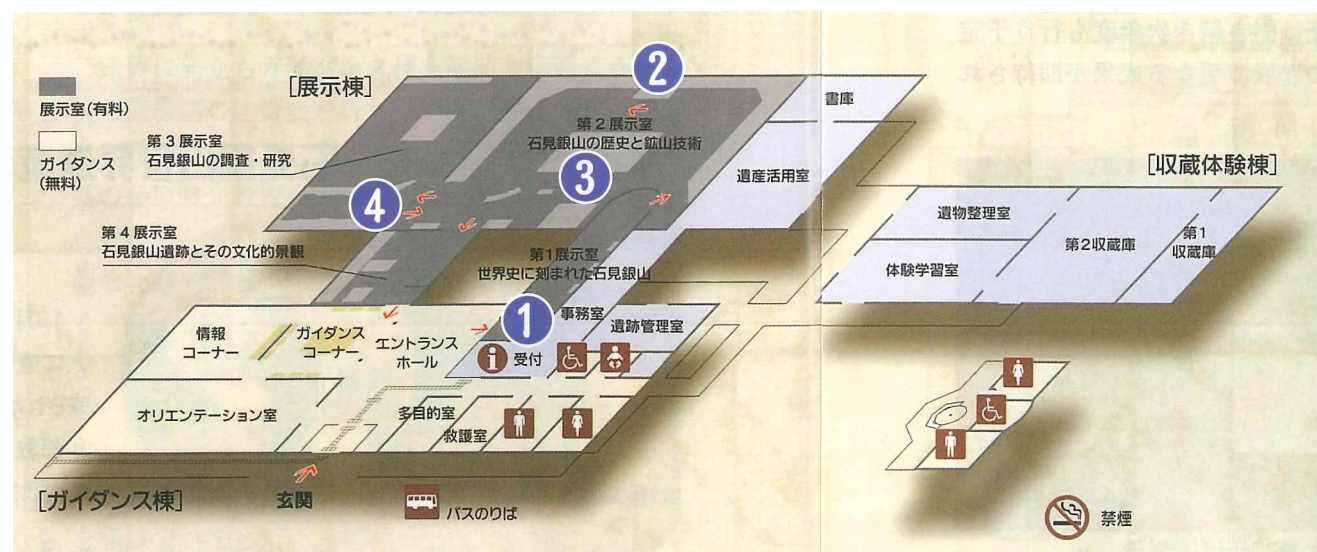
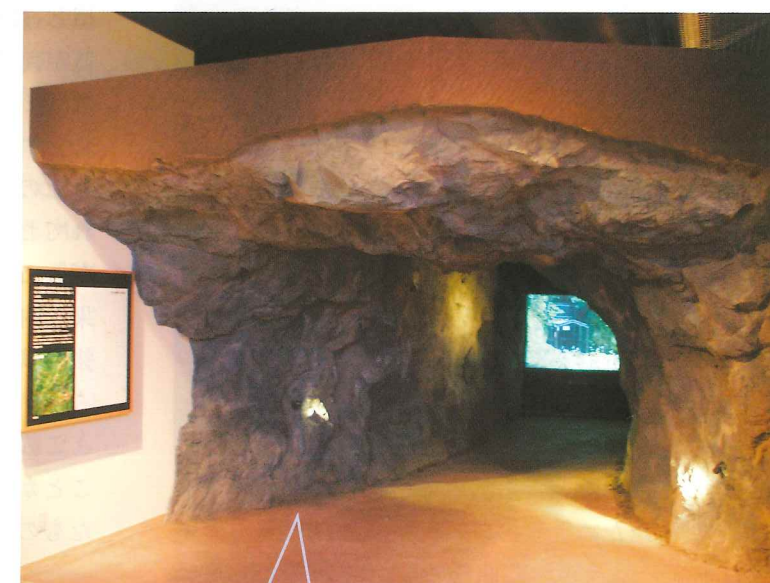
発掘調査などの成果にもとづく、仙ノ山本谷地区の釜屋間歩周辺の大規模模型です。狭い谷間に家々が立ち並び多くの人々が暮らしていた石見銀山最盛期の鉱山町の様子を大迫力で再現しました。

3 【銀製錬工房 再現模型】

展示室中央に「銀製錬工房」を原寸大で再現しました。かなめ石を使う「選鉱」や、二丁ふいごでの「素吹」、銀の生産量を飛躍的に増やした技術「灰吹」など、鉱石から銀を取り出す作業をご覧ください。

4 【大久保間歩 再現模型】

石見銀山最大級の坑道「大久保間歩」の一部を忠実に再現しました。精巧な型取りによる内面の質感は本物と見間違えるほど。細かな採掘跡をじっくり観察でき、内部で上映している迫力映像と合わせ、「大久保間歩」を疑似体験できます。



(1)発掘調査 大田市石見銀山課 新川 隆

発掘調査はこれまで、町並み以外では銀山最盛期の銀生産や生活に関わる遺跡を中心に調査を行ってきましたが、本年度は明治期の製錬所である清水谷製錬所跡の調査に着手しました。

調査は、製錬所の遺跡整備に伴いその事前調査として実施しています。

清水谷製錬所跡

清水谷製錬所は、明治になって鉱業権を取得した藤田組(現DOWAホールディングス株式会社)により当時の最先端技術を使って建設された製錬所です。

仙ノ山頂上付近にある福石鉱床の銀鉱石を製錬するための製錬所で、明治27年から建設が始まり、翌年の28年春から操業を開始しました。

ところが、操業を開始すると鉱石の品位が予測より悪かったことなどから銀生産が予定を下回り、不採算となったため翌年の明治29年秋には操業を停止し約1年半という短い期間の操業で終わってしまいました。その後、この場所では積極的な開発が行われないまま現在に至り、今では当時の面影を9段の石垣や平坦地に留めるのみとなっています。

しかし、逆にこのことは考古学的には大変幸運だったと言えるでしょう。再開発が行われなかったため、当時の姿が大きく変えられることなくそのままの状態が残されたからです。調査前から地表面に残るレンガ遺構や、石組みなどが確認されており、当時の遺構が良好に残っていることが予測されました。

調査を行うと予測通り良好な状態で遺構が残されていることが確認されました。調査は5本のトレンチを設定して行っていますが、現在までに建物の基礎と考えられる石敷き状の列石などを確認しています。この列石の位置と方向は、製錬所の古写真に写っている建物の壁の位置と一致しており、製錬所の建



▲清水谷製錬所跡の現状

物の基礎であったと考えられます。

また、道路部分の掘り下げでは、石組みの側溝を良好な状態で検出しています。この側溝はモルタル等を使って底面も舗装する三面水路で、場所によってやや作り方が違うことも確認しました。

そして、建物の壁があったと考えられる石列上で石垣と石垣のあいだから、キューベルと呼ばれる骨灰皿が大量に出土しました。現在整理中なので、正確な数はまだ判明していませんが、数千個にのぼると思われ

れます。このキューベルは一昨年清掃中にも数個採集されており、その内2点を科学分析に出していましたが、このほどその結果が公表されました。分析の結果、内部に鉛の成分が含まれていることが確認され、銀の試金用に用いられるキューベルの可能性が高いことが判明しました。

このキューベルは建物の基礎石の上から出土したことから、建物が無くなった後に一括して廃棄されたものと考えられます。

今回の調査で明らかとなったことを要約すると、

- ①建物の基礎など当時の遺構が良好な状態で確認されたこと。
 - ②その遺構は後世の改変を受けておらず、明治期のきわめて短期間の遺構の状態を示していること。
 - ③キューベルの大量出土など明治期の鉱山技術を解明する上で画期的な資料が得られたこと
- などです。

これらのことから清水谷製錬所は、明治期の製錬所が後世に改変を受けずそのままの状態で保存された全国にも例を見ない貴重な産業遺跡であると言えます。

さらに遺構や遺物の研究が進めば、日本鉱業史、科学技術史の解明に向けて画期的な資料となるでしょう。

整備に伴う発掘調査は引き続き次年度も行う予定です。今後調査の進展で更なる成果が期待されます。



▲キューベル(骨灰皿)が大量に出土した様子

(2)テーマ別研究 島根県世界遺産室 椿 真治

石見銀山遺跡の調査研究では、今年度から県内外の専門家を客員研究員として迎え、新たな形での共同研究をスタートしました。これまでの調査研究は、発掘調査や文献調査など、どちらかといえば基礎的な「調査」が中心でしたが、この共同研究では、「石見銀山遺跡の歴史的研究」と「アジア地域の鉱山比較研究」の二つの大きなテーマを目的に、「研究」に比重をおいたものといえます。「石見銀山…」では具体的なテーマとして「最盛期石見銀山の復元」を最初のテーマとして扱いました。これまで遺跡内のどこを発掘調査しても、17世紀初め頃の遺構や遺物が発見されていることから、現在も町並みが残る大森地区や遺跡と化した鉱山地区の往時の様子を大胆に復元しようという試みです。「アジア地域…」では、世界遺産の登録時に宿題として要求された課題でもあり、国内外の同時期鉱山遺跡の資料収集により、石見銀山の特徴をより明確にしようという試みです。



▲石見銀山の範囲の説明



▲客員共同検討会



▲現地視察

石見銀山現地での共同研究は年3回行う予定で、すでに6月18、19日に準備会、8月20～21日に第1回の客員共同検討会を実施しました。客員研究員には、鉱山に詳しい方々はもちろんですが、鉱山遺跡をこれまでと異なる視点で研究していただける方にも参加していただいています。まずは現地を実際に歩き見て、鉱山遺跡の様子をイメージしていただくことから始めました。

今後は、このテーマ研究の具体的な成果を、みなさんに分かりやすいかたちでお伝えしたいと思います。

石見銀山遺跡客員研究員一覧

	氏名	所属	専門分野
復元研究	大庭 康時	福岡市教育委員会	考古学
	仁木 宏	大阪市立大学	中世史
	藤原 雄高	石見銀山資料館	近世史
	山村 亜希	愛知県立大学	歴史地理
	和田 美幸	松江市教育委員会	中世史
比較研究	豊島 久乃	東京文化財研究所	文化的景観
	中西 哲也	九州大学総合研究博物館	鉱山・鉱床学
	中村 唯史	島根県立三瓶自然館	地質学
	吉原 道夫	白井市立七次台中学校	中国考古学

(※50音順、敬称略)



町並みを歩く 12 ～修理の現場から～

大森銀山地区

大田市石見銀山課 松浦 満

波根田家土蔵 明治中期以前(推定)の建築

大森町新町にある波根田家は、通りの東側にあつて主屋の後背に土蔵が建っており、町並みと並行する市道大森線(旧県道)などから銀山川越しによく見えます。建築年は特定できませんでしたが、木舞竹の固定や屋根の野地板など各所で和釘が使用されていることから、明治中期以前の建築と推定されます。

主屋は平成11年度の修理の際に小屋裏から棟札が発見され、向かいの旧大森区裁判所の建築と同じ明治23年に建てられた

ことが分かっています。棟札によると、施主は伊藤東太郎で、建築当初は「常盤館」という旅館を営んでいたと伝わりますが、その後は文具・雑貨店を経て昭和19年に現所有者が住宅として入居しました。

今回修理した土蔵は、屋根葺き土の粘性低下に伴い雨漏りのおそれがあるため葺き替えを行ったものです。また、過去の雨漏りが遠因となって蟻害が進んだ構造材の一部は交換し、外壁の補修を併せて行いました。



〈修理前〉



〈修理後〉

温泉津地区

大田市石見銀山課 今田 善寿

石見家主屋 明治期(推定)の建築物

法泉町に位置する切妻造本2階建の町屋型住宅です。通りの南側に建つ主屋は“回り番付”と“和釘”が使われていたので明治中期以前の建築と推定されます。

屋根は登り窯で焼かれた来待色の石州瓦で、その一枚に「嶋根県邇摩郡温泉津村 出品人 若山美作」の名がありました。聞き取りによると、若山美作氏はこの家に居住し、大正初期に大田市水上町で「若山瓦工場(現

在の“島田窯”)]を創業していました。

主屋の裏は以前中庭でしたが増築された台所となっています。台所の奥には大正期～昭和初期と考えられる離れ(木造総2階建)があります。

今回は主屋一階を営業用の駐車場として使用しつつ、町並みの景観と調和のとれた外観にする修景工事を行いました。



〈修景前〉



〈修景後〉



石見銀山遺跡世界遺産登録 一周年記念事業

島根県世界遺産室 和田 守弘・田原 淳史

島根県と大田市では昨年、石見銀山遺跡の世界遺産登録一周年を記念して、東京、兵庫、千葉、沖縄の全国4会場で記念シンポジウムや講演会などを行いました。前号では東京会場で開催したシンポジウムについて紹介しましたが、今号ではその他の様子を紹介したいと思います。

東京

(平成20年8月2日)

東京都江戸東京博物館を会場に「石見銀山遺跡の調査から一姿を現した鉱山町」と題して、世界遺産室守岡正司専門研究員から各資産の価値説明と世界遺産登録への流れ、登録後の課題について講演を行いました。



東京講演会▶

兵庫

(平成20年10月4日)

兵庫県立考古博物館を会場に「鉱山の技と町並み～石見と生野の銀山」と題して講演及び座談会を開催しました。博物館の石野博信館長の進行のもとに行われた座談会では、神戸大学教授で生野銀山の調査に携わってこられた足立裕司氏と世界遺産室の目次謙一主任研究員が、2つの銀山の重要性、そしてその貴重な遺産をどのように保護していくかということについて、それぞれの視点から意見をかわしました。



兵庫座談会▶

千葉

(平成20年11月23日)

千葉県立中央博物館を会場に「産業遺産としての石見銀山」と題して、国立科学博物館の鈴木一義氏による講演が行われました。講演では、石見や佐渡に残されている絵巻に描かれた問歩や製錬の様子、人々の様子から、当時の鉱山や銀・金の生産についてお話いただきました。また、田原淳史文化財主任による石見銀山遺跡の価値についての講演もありました。



千葉講演会▶

沖縄

(平成21年1月17日)

沖縄県立博物館・美術館を会場に「銀が繋ぐ二つの世界遺産～琉球と石見」と題して講演及び対談を開催しました。石見銀山資料館館長の仲野義文氏により石見銀山遺跡の価値や歴史について講演をいただいた後、神戸女学院大学教授の真栄平房昭氏と仲野氏による対談が行われ、これまであまり焦点が当たらなかった石見銀と南九州、琉球の関わりについて、当時の東アジア海域の情勢も交えながら意見が交わされました。



沖縄講演会▶

一周年記念事業は様々な方の協力を得て無事に終わることができました。この事業を通じて石見銀山遺跡の世界遺産としての価値について、多くの方に知っていただくことができたのではないかと考えています。同時に、この貴重な遺産を未来の世代に確実に引き継いでいく必要性についても、改めて確認する機会となりました。

広島市で開催された 「島根ふるさとフェア2009」 で石見銀山をPR!

島根県世界遺産室 引野 佳幸

去る1月17日、18日に広島市の広島県立総合体育館で開催された「島根ふるさとフェア2009」において、石見銀山遺跡のPRを行いました。

体育館の会場内にPRブース「世界遺産 石見銀山遺跡」を設け、展示物やパネル、DVDの上映、パンフレットの配布などにより石見銀山を広く紹介するとともに、昨年10月に石見銀山現地にフルオープンした『石見銀山世界遺産センター』の周知・誘客を図りました。

展示物としては、世界遺産センターで展示している採掘道具（山槌、山箸、鉄子）と、毛利元就が朝廷に献上した「御取納丁銀」のレプリカを持参しました。足を止め、盛んに質問をされる姿が多く見られました。

また、今回はブースへの誘客を図るため、プラスチック板を使っての「丁銀づくり体験」を行いました。「なんちゃって丁銀」という一風変わったネーミングとともに、年齢を問わず誰でも楽しく体験できるというイメージをアピールしたことが誘客につながり、小さな子供さんからご高齢の方まで実に様々な年代の方々が参加され、大変好評でした。午前中に体験した方が午後にもたまたま来られたり、土曜日に来られた方が日曜日にも再訪されるなど、2日間で延べ300名を超える方々に体験していただきました。世界遺産センターでも様々な体験学習の実施を検討していますが、今後、この丁銀づくり体験を加えることによって、より多くの方々がセンターに訪れていただけるものと期待されます。

併せて、石見銀山にまつわる物知りクイズ大会も開催し、丁銀づくり体験とこのクイズ大会が呼び水となって、ブース内は一時大変な賑わいとなりました。

さらに、「しまねバスツアー体験号」に乗車してのPRも行いました。県市の職員が会場隣接地で待機しているバスに添乗して、参加者の皆さんに石見銀山の魅力を説明するとともに、世界遺産センターの展示室で上映している「大久保間歩」のDVDを上映した後、それにちなんだクイズを出題しました。少し難しい問題もありましたが、石見銀山に興味のある方も多かったせいか、景品のDVDを目当てに積極的に回答の手が上がり、バスの中は大いに盛り上がりました。

島根ふるさとフェアでのブース出展は今回で4回目となり、世界遺産登録からも1年半が経ちましたが、石見銀山のことを知らないという方もいました。特に、そういう方々に対しては良いPRになったと思います。

また、今回来られた方々からは、ぜひ石見銀山を訪れたいという声も数多くいただきました。今後も、様々な機会を利用して、石見銀山遺跡の魅力を紹介し、現地に多くの方に訪れていただけるよう積極的にPRを続けていきたいと考えています。



▲貴重な展示品に興味津々



▲パネルや映像を真剣に見つめる



▲丁銀づくり体験で思い思いの絵を描く子供たち



▲丁銀づくり体験の順番を待つ皆さんの行列



▲丁銀づくり体験とクイズ大会が重なって大賑わいの銀山ブース

“好評”大久保間歩一般公開

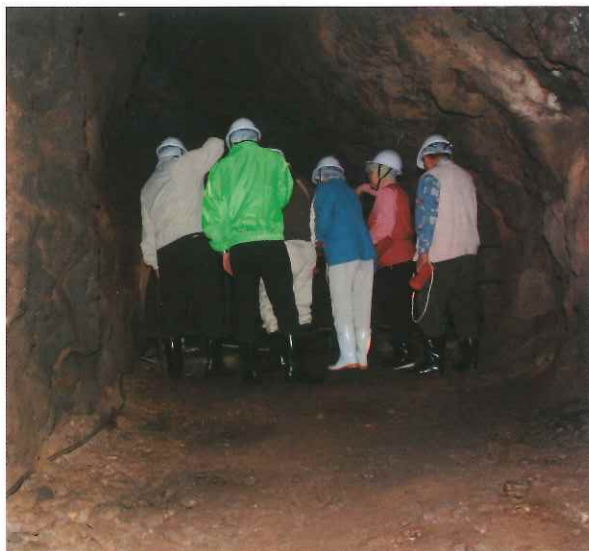
大田市石見銀山課 長嶺 康典

昨年4月26日から開始した、大久保間歩一般公開の年内の公開ツアーが11月30日に終了し、入場者数が約6,500名に達しました。

公開ツアーは4月から11月までと3月の週3日(金、土、日)及び祝日の一日午前、午後それぞれ2回で、1組20名以内のツアーが「石見銀山ガイドの会」の案内で本谷口から釜屋間歩までの往復コースで行っています。

今年度は、これまで天候にも恵まれ、104日で約400回のツアーが実施されましたが、参加者の多くは関東地方などの遠方からの来訪者が目立ちました。参加者の中でも高齢者からは、「久しぶりに砂利道を歩いた」、「自然が豊かで田舎を思い出す」など、大久保間歩とは直接関係ない感想が飛び出すなど、担当者としては予想外なツアーの好評ぶりに驚いています。

大久保間歩ツアーの一番の魅力は、やはり‘本物’の坑道を見学できることではないでしょうか。普段履き慣れない長靴にヘルメット、暗黒の坑道を懐中電灯一つで歩くことは、都会の青年層には未知の体験で、「すごく、良かった」という感想が聞かれるとツアーガイドを担当するガイドの会のメンバーやツアーの募集・受付を担う(株)石見観光のスタッフからも笑顔がこぼれます。



▲大久保間歩一般公開の様子

今回は、大久保間歩ツアーのもう一つの魅力について紹介します。ツアーに参加される方のそのほとんどは、“世界遺産”または「鉱山」とか、「遺跡」に興味を持っておられる方だと思いますが、ちょっと視点を変えると珍しい動物に会うことができます。ガイドさんの説明を受けることができますが、大久保間歩坑内の水溜まりには「ヨコエビ」とか、めったに見られない「ワラジムシ」と呼ばれる小さな動物(甲殻類)や「カマドウマ」という小さな昆虫に会うこともできます。また、大久保間歩はコウモリの越冬地として知られていますが、冬季以外にも地元の「コキクガシラコウモリ」が飛び交う姿を見ることができます。

昨年度、実験公開を実施する中で、大久保間歩を一般公開することが、コウモリの生態に対し悪影響を及ぼすのではないかと心配されましたが、12月よりコウモリの生態調査を再開した結果、12月25日現在で「キクガシラ」、「ユビナガ」、「モモジロ」、「テング」の4種類のコウモリが合計で約2,500匹以上冬眠していることが確認され、例年並みに回復していることが分かりました。また、1年以上にわたる坑内の温湿度データも、入坑の有無及び季節に影響なく一定しており、現在の一般公開の方法が“自然環境に優しい”ということが改めて確認できました。



▲冬眠するユビナガコウモリ (H20.12.25撮影)

第2回 石見銀山遺跡調査活用委員会

島根県世界遺産室 椿 真治

昨年12月19日に、石見銀山世界遺産センターにおいて2回目の石見銀山遺跡調査活用委員会を開催しました。総勢15名の委員全員に出席いただくことができ、会議前には、10月にオープンしたばかりの展示室の観覧会もあり、各委員とも熱心に見学されました。

会議では、事務局から世界遺産センターの運営組織など新たな体制の説明の後、議題である「調査研究」「保存管理」「整備活用」などの分野について、委員から多くの助言や意見をいただきました。また、国の文化審議会世界遺産特別委員会が示した佐渡金銀山と石見銀山との組み合わせについては、文化庁記念物課本中眞主任文化財調査官により、これまでの経緯や課題についての説明がありました。



▲会議の様子



▲出土品指導の様子

石見銀山遺跡調査活用委員会
委員一覧

氏名	職名	専門分野
井上 雅仁	島根県立三瓶自然館学芸GL	自然環境
大橋 泰夫	島根大学法文学部教授	考古学
勝部 昭	元島根県教育委員会教育次長	文化財行政
黒田 乃生	筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授	文化的景観
小林 准士	島根大学法文学部准教授	近世思想史
高安 克己	島根大学副学長	地質学
田中 裕子	オフィスタナカ代表	地元有識者
中塩 弘	DOWAホールディングス(株)執行役員	鉱業
仲野 義文	石見銀山資料館館長	近世史
中村 俊郎	中村ブレイス(株)代表取締役社長	地元有識者
西村 幸夫	東京大学先端科学技術研究センター教授	都市計画
林 秀司	島根県立大学准教授	人文地理
原田 洋一郎	東京都立産業技術高等専門学校准教授	鉱山史
町田 章	前奈良文化財研究所所長	考古学
村上 隆	京都国立博物館学芸部保存修理指導室長	歴史材料科学

(※50音順、敬称略。委員長は町田 章)

石見銀山世界遺産センター 活動だより

島根県世界遺産室 守岡 正司

しみずだにせいれんしょあと ★清水谷製錬所跡発掘調査速報展

1月19日～3月1日

清水谷製錬所は、1895(明治28)年に藤田組によって操業が開始されました。現在は建物の基礎部分の石垣やレンガ施設を残すのみですが、今年度の発掘調査により、数千個のキューペル(骨灰皿)などが発見されました。近くに鉱石の品位分析施設があったものと推定されます。



▲発掘速報展



▲福光石作品展

ふくみつし ★福光石の加工体験作品展

1月19日～3月1日

石見銀山を体感していただくため石見銀山にゆかりのある体験活動をおこなっています。平成20年11月29日(土)に坪内正史さんを講師にお迎えし、銀山で地蔵や建築材などに数多く使われている「福光石」を使い、ノミで石を加工しました。また、製作した作品を展示しました。

★第1回公開講座

日時 平成21年1月24日(土)

演題

「石見銀山周辺及び石見地域の石造物」

石見銀山遺跡についてより深く関心を持っていただくため公開講座を行っています。

今回は来待ストーン館長永井泰さんに講演していただきました。石見銀山を中心に石見地域に残る灯籠や狛犬などの石造物の特徴を、実際に調査されたたくさんの写真を交えて紹介していただきました。



▲第1回公開講座

イベント情報



石見銀山 世界遺産センター 第2回公開講座

平成21年3月14日(土) 14:00~15:30 「銀と貨幣」(仮題)

西脇 康氏(早稲田大学エクステンションセンター講師)

3月14日(土) 10:00~12:00

講演会にあわせて、「丁銀づくり」を行います。

~いろいろな材料で丁銀をつくってみよう~

[問い合わせ] 〒694-0305 島根県大田市大森町イ1597-3
電話0854-89-0183 FAX0854-89-0089
E-MAIL: ig-sekai@tx.miracle.ne.jp

ただいま 勉強中

石見銀山世界遺産センター
では直接来訪者を案内される「石見銀山ガイド
の会」を対象に展示品を使いながら研修を行っ
ています。参加された皆様は熱心に質問され、
メモをとっておられました。現地には詳しい方ば
かりで、鋭い質問攻めに職員はタジタジでした。

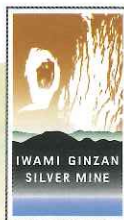


石見銀山遺跡と ユネスコ

大田市

石見銀山遺跡を世界遺産に登録したのは
ユネスコです。1946年に誕生したユネスコ
は「人権尊重を通じて平和を実現する」こ
とを目的にしています。この精神をうけて大
田市は2008年9月「人権尊重都市宣言」を
いたしました。石見銀山遺跡の歴史をし
のび「自然との共生」を大切にしたいものです。

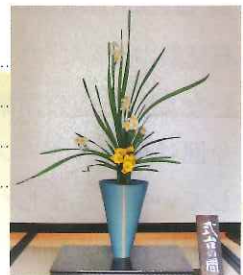
このマークは、世界遺産である
石見銀山遺跡を構成する間歩や山、
海などの資源をモチーフにし、
公式マークとして石見銀山協働
会議が作成しました。



石見銀山
WORLD HERITAGE

「石見銀山ニュース」14号を
お届けします。
銀山は、梅が満開です。

旧河島家住宅において
水仙と小菊 ▶



石見銀山遺跡ニュース第14号 2009年3月3日発行 編集発行/島根県・大田市教育委員会/TEL0852-22-5642 (島根県教育庁文化財課 世界遺産室)
http://www.pref.shimane.lg.jp/sekaiisan/iwami_ginzan/

石見銀山世界遺産センター/大田市大森町イ1597-3 TEL0854-89-0183 FAX0854-89-0089
<http://www.iwamigin.jp/ohda/minasdeplata/ginzan/>